

## 第3章 複数産地モデル

「第2章 基本モデル（単一産地モデル）」と併せてご確認ください。




表示する原料原産地が複数の産地（原産国）であるものの、基本モデルと同様に原料原産地をあらかじめ印刷した包材を使用するモデルです。

表示内容（国別重量順表示、又は表示、大括り表示）に合うように、製品に使用する原産地別の使用量を管理し、その記録を残すことが大きなポイントです。

以下、原料原産地表示を中心に説明しますが、特定の産地や、品種・栽培方法など原材料の特色を表示する場合にも、注意すべきポイントは共通です。

### 複数産地モデルによる表示の例

——原料に関わる情報をあらかじめ包材に印刷して表示（原料原産地は複数）——

【重量順表示】	【又は表示】	【大括り+又は表示】																
																		
<table border="1"> <tr> <td>品名</td> <td>レギュラーコーヒー（粉）</td> </tr> <tr> <td>原材料名</td> <td>コーヒー豆（生豆 生産国名：ベトナム、ブラジル）</td> </tr> </table>	品名	レギュラーコーヒー（粉）	原材料名	コーヒー豆（生豆 生産国名：ベトナム、ブラジル）	<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>ポテトチップス</td> </tr> <tr> <td>原材料名</td> <td>じゃがいも（国産又はアメリカ）、植物油、食塩、デキストリン／調味料（アミノ酸等）</td> </tr> <tr> <td colspan="2">じゃがいもの産地は、前年度使用実績順</td> </tr> </table>	名称	ポテトチップス	原材料名	じゃがいも（国産又はアメリカ）、植物油、食塩、デキストリン／調味料（アミノ酸等）	じゃがいもの産地は、前年度使用実績順		<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>トマトケチャップ</td> </tr> <tr> <td>原材料名</td> <td>トマト（輸入又は国産（5%未満））、糖類（砂糖・ぶどう糖果糖液糖、ぶどう糖）、醸造酢、食塩、たまねぎ、香辛料</td> </tr> <tr> <td colspan="2">トマトの産地は、今年度の使用計画順</td> </tr> </table>	名称	トマトケチャップ	原材料名	トマト（輸入又は国産（5%未満））、糖類（砂糖・ぶどう糖果糖液糖、ぶどう糖）、醸造酢、食塩、たまねぎ、香辛料	トマトの産地は、今年度の使用計画順	
品名	レギュラーコーヒー（粉）																	
原材料名	コーヒー豆（生豆 生産国名：ベトナム、ブラジル）																	
名称	ポテトチップス																	
原材料名	じゃがいも（国産又はアメリカ）、植物油、食塩、デキストリン／調味料（アミノ酸等）																	
じゃがいもの産地は、前年度使用実績順																		
名称	トマトケチャップ																	
原材料名	トマト（輸入又は国産（5%未満））、糖類（砂糖・ぶどう糖果糖液糖、ぶどう糖）、醸造酢、食塩、たまねぎ、香辛料																	
トマトの産地は、今年度の使用計画順																		

※この表示例は、一括表示のうち、名称欄、原材料名欄を示しています。

# 1 各工程における注意ポイント

## (1) 企画段階



**産地が変動する可能性を考慮して、原料原産地表示方法を決定する**

基本モデル（産地が1つの場合）での注意ポイントに加え、今後調達し利用する原材料の産地を予測・計画し、「国別重量順表示」「又は表示」「大括り表示」といった表示方法の中から実態に合ったものを選択し、表示する産地名などを定めることが必要です。

「又は表示」や「大括り表示」をする場合には、過去の産地別の使用量をまとめた「産地別使用実績」や、今後の産地別調達見込みを基に「産地別使用計画」を作成します<sup>4</sup>。

併せて、「又は表示」の場合は、商品の包材等に「産地別使用実績」や「産地別使用計画」に基づく使用割合の高いものから順に表示した旨の注意書きが必要となります。

例：「〇〇（原材料）の産地は、昨年度の使用実績順によるものです。」

又は

「〇〇（原材料）の産地は、今年度の使用計画順によるものです。」

<sup>4</sup> 「又は表示」や「大括り表示」をする場合の「産地別使用実績」や「使用計画」の作成及び表示について、くわしくは「原料原産地表示活用マニュアル」p.15～22をご参照ください。

参考 農林水産省 web サイト「加工食品の原料原産地表示制度について」

[https://www.maff.go.jp/j/syouan/hyoji/gengen\\_hyoji.html](https://www.maff.go.jp/j/syouan/hyoji/gengen_hyoji.html)

## (2) 準備段階



### 入荷検品のときに納品書と現品の産地情報を照合

基本モデル（産地が1つの場合）での注意ポイントに加え、複数の産地の原材料が供給されるので、原材料の扱いに注意が必要です。

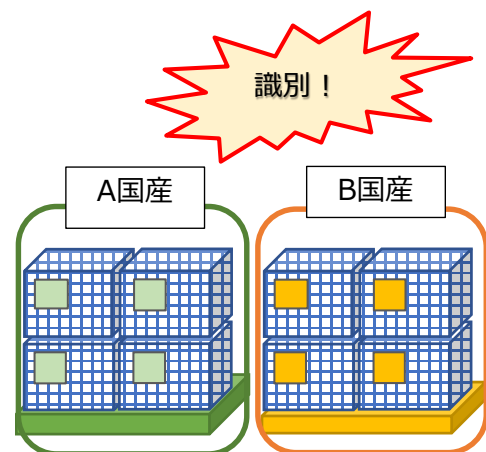
まず、原材料サプライヤが原材料を納入する際の納品書に原産地を特定できる情報、できれば原産地そのものを原材料に表示してもらい、入荷検品のときに納品書と現品の産地表示を照合します。

No	品名	入荷先	荷姿	数量	原産地	点検結果 (品質・鮮度・表示等)	原材料ロットNo	点検者
1	ジャガイモ	Y社	500kg /コンテナ	20	国産	異常なし	PT-Y-0128JP	〇〇
2	ジャガイモ	Y社	200kg /7Lコン	200	アメリカ	異常なし	PT-Y-0128US	〇〇
3								
4								
5								



### 産地が異なる場合には、別の入荷ロットとして保管します

さらに、仕入れた原材料を産地別に区分して保管することも重要です。同じ日に同じ仕入先から入荷した原材料であっても、産地が異なる場合には、別の入荷ロットとして管理します。



### (3) 製造段階



#### 原材料の産地別の構成に注意して製造を行う

基本モデル（産地が1つの場合）での注意ポイントに加え、使用原材料の産地別の構成を管理することが重要です。

- ・ 国別重量順表示をしている場合  
国別重量順表示では、表示されている産地の重量順に原材料を使用する必要があります。
- ・ 「又は表示」や「大括り表示」をしている場合  
表示されている産地の範囲内の原材料を使用する必要があります。

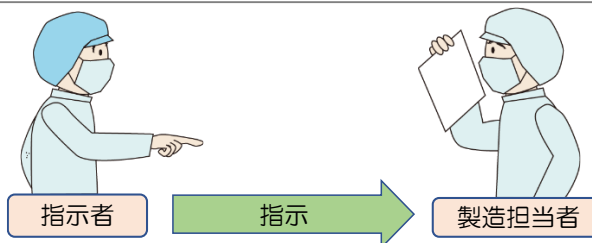
製造記録に、使用した包材、使用した原材料の入荷ロット番号と使用量を、原産地別の内訳がわかるよう記録します。

**製造指示書**

製造指示番号	PT001-220202-1
製造日	2022年2月2日

製品名	商品番号	包材(JANコード)	内容量	製造数	単位
ポテトチップス(コンソメ)	PT001	4912345678901	75g	8,000	袋

使用原材料	原材料ロット番号	使用数	数量(kg)	適用
国産ジャガイモ	PT-Y-0128JP	1コンテナ	500	
アメリカ産ジャガイモ	PT-Y-0128US	1フレコン	200	
植物油				
チキンコンソメパウダー				



製造記録: ポテトチップス製造記録

製造ライン2	製造指示番号	PT001-220202-1
	製造日	2022年2月2日

時間帯	原材料ロット番号	産地	投入高	出来高	包装1	包装2	包装3	製造ロット番号
9:00~	PT-Y-0128JP	国産	500kg					
10:00~	↓	↓						
11:00~	↓	↓		430kg		430kg		L2-0202JP-1
12:00~	PT-Y-0128US	アメリカ	200kg	170kg		170kg		L2-0202US-1
13:00~								
14:00~								
15:00~								

### (4) 出荷記録



#### 製造ロット番号を記載した納品書の控えを残す

基本モデル (p.17) を参照。

## 2【複数産地モデル】 取組み事例

### ポテトチップスへの原料原産地表示

ポテトチップスを製造する B 社は、原材料のじゃがいもの産地を「国産又はアメリカ」と表示しています（産地を限定している一部の商品には「国産」等と表記）。

B 社では「又は表示」をするため、原産国別の使用実績を把握しており、会社全体の 1 年間のポテトチップス製品への原産国別のじゃがいもの使用実績を集計し原料原産地表示の根拠としています。

表示の例

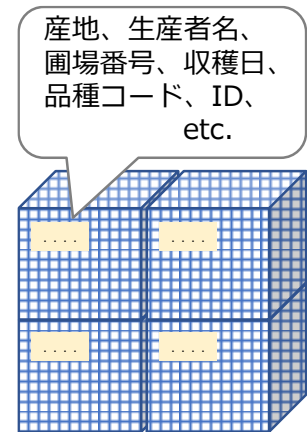
名称	ポテトチップス
原材料名	じゃがいも（国産又はアメリカ）、植物油、食塩、デキストリン／調味料（アミノ酸等）

じゃがいもの産地は、製造の前年度使用実績順

### 入荷したじゃがいもに関する情報の伝達

農家が収穫した国産のじゃがいもは、まず B 社グループ会社の産地の集荷拠点に入荷します。このとき、じゃがいもは産地、品種、生産者等の分類ごとにコンテナに納められます。このコンテナに、産地・生産者名・圃場番号・収穫日・品種コード等の情報を記載したラベルを貼付し、識別しています。

このコンテナがポテトチップス製造工場へ入荷され、コンテナに貼付されたラベルの情報が製造工場へ伝達されます。



### 工場内でのトレーサビリティ

ポテトチップス製造工場での製造工程は、原材料のじゃがいものラインへの投入に始まり、洗浄、皮むき、トリミング（傷んだ部分等の除去）、スライス、フライ、ピッキング（不良品除去）、味付け、包装と続きます。これらの工程が連続した製造ラインで行われ、原料投入から包装まで約 20 分です。

原材料となるじゃがいもは、受け入れ時に品質検査を受けたうえでラインに投入されます。このとき、各コンテナのじゃがいもを投入した時刻と重量が記録されます。それにより、どのラインでどの時刻に包装された製品が、どの産地・生産者・収穫日のじゃがいもを原料として製造されたか、記録に基づいて把握できます。B 社はこのトレーサビリティの仕組みを、ポテトチップスの品質管理に役立てるだけでなく、原材料のじゃがいもの品質の改善にも役立てています。